

# 平成18年3月期 決算説明会資料

---

曾田香料株式会社

代表取締役社長 光安哲夫

# 目次

---

- I. 会社概要
- II. 平成18年3月期 決算概要(連結)
- III. 平成18年3月期 決算概要(単体)
- IV. 平成19年3月期 業績予想
- V. 新中期経営課題(平成18~20年度)の概要

# I . 会社概要

# 会社概要

---

## 1) 経営理念

「香料を中心とする各種製品の開発と生産を進め、  
これを顧客に販売することを通じて、社会に奉仕する」

## 2) 事業所

本社(東京都中央区)、大阪支店、札幌営業所  
野田工場(千葉県野田市)、郡山工場(福島県郡山市)

## 3) 関係会社

連結子会社	岡山化学工業(株)、(株)ソダアクト
持分法適用関連会社	台湾曾田香料(股)、遠東香料(股)
非連結子会社	曾田香料(昆山)有限公司

## 4) 従業員数 (H18年3月末 有価証券報告書基準)

連結	348名
単体	285名

## 5) 事業内容

フレグランス（香粧品香料）

シャンプー・リンス、石鹸、芳香剤、入浴剤等に使用



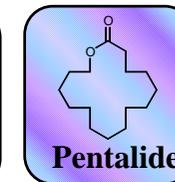
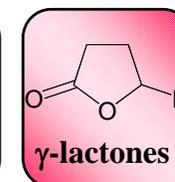
フレーバー（食品香料）

飲料、菓子、調味、たばこ、飼料等に使用



合成香料・ケミカル

- ・ラクトン類、大環状ムスク等のフレグランス・フレーバー素材
- ・ガス着臭剤（都市ガス・LPG用）
- ・医薬・農薬中間体、電子材料等



## Ⅱ. 平成18年3月期 決算概要(連結)

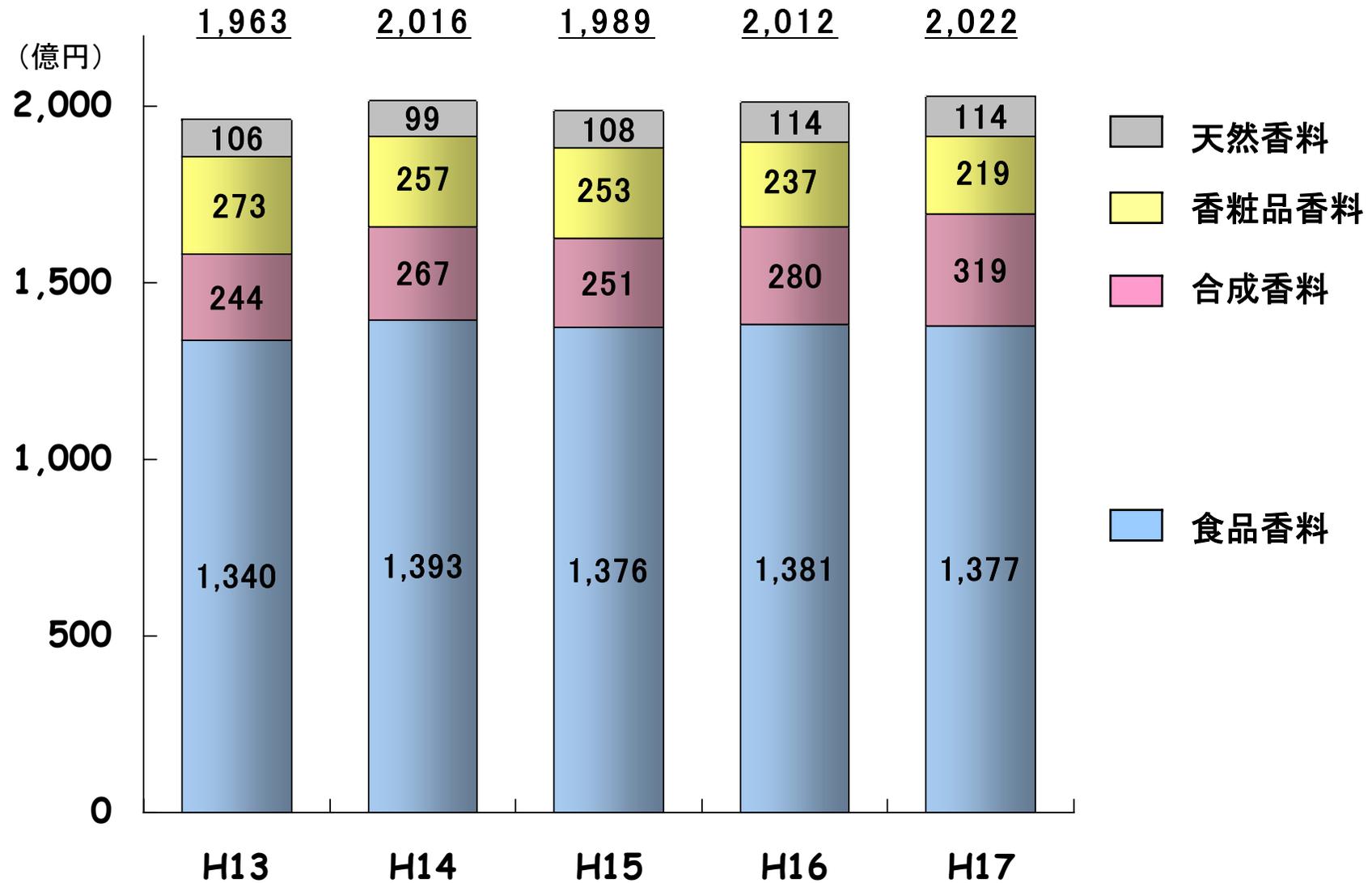
# 連結業績の概要(収益)

億円

	前期		当期		増減	
	H17/3	構成比(%)	H18/3	構成比(%)	金額	%
売上高	184.8	100.0	185.0	100.0	+ 0.2	+0.1%
売上原価	132.3	71.6	129.7	70.1	▲ 2.6	▲2.0%
売上総利益	52.6	28.4	55.2	29.9	+ 2.6	+4.9%
販管費	38.7	20.9	38.4	20.8	▲ 0.3	▲0.7%
営業利益	13.9	7.5	16.9	9.1	+ 3.0	+21.8%
経常利益	13.9	7.5	17.2	9.3	+ 3.3	+23.5%
税引前当期純利益	13.8	7.5	17.0	9.2	+ 3.2	+22.9%
当期純利益	8.7	4.7	10.5	5.7	+ 1.8	+20.5%

## 国内香料市場推移(製品販売金額ベース)

(日本香料工業会 販売統計より)



## 部門別概況(1)

---

### フレグランス

国内向けでは化粧品用香料をはじめ全般的に低調。  
アジア向け輸出用調合香料も前年同期を若干下回り、  
全体で減収。

売上高 ▲7.0% (製品 ▲6.8%、商品 ▲7.5%)

【国内香料業界の前年比伸長率(H17年 製品販売金額ベース)】

国内平均

フレグランス ▲7.5%

## 部門別概況(2)

### フレーバー

たばこ香料は市場縮小の影響により国内市場向けが、低調に推移。

食品用香料も飲料用が前年の猛暑効果の反動もあり、伸び悩み減収。

**売上高 ▲3.6% (製品 ▲4.8%、商品 ▲2.2%)**

**【国内香料業界の前年比伸長率(H17年 製品販売金額ベース)】**

国内平均

フレーバー ▲0.3%

## 部門別概況(3)

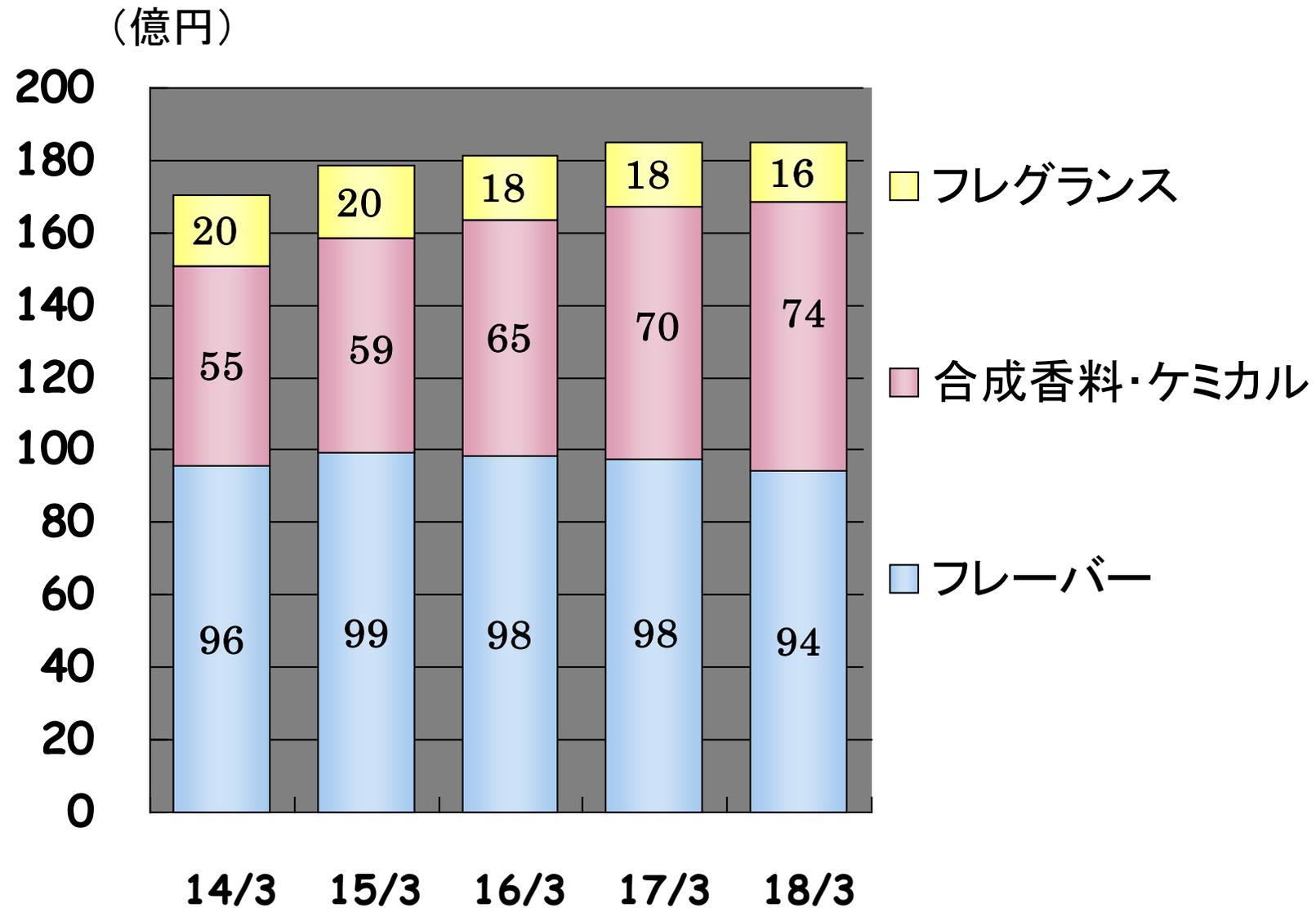
---

### 合成香料・ケミカル

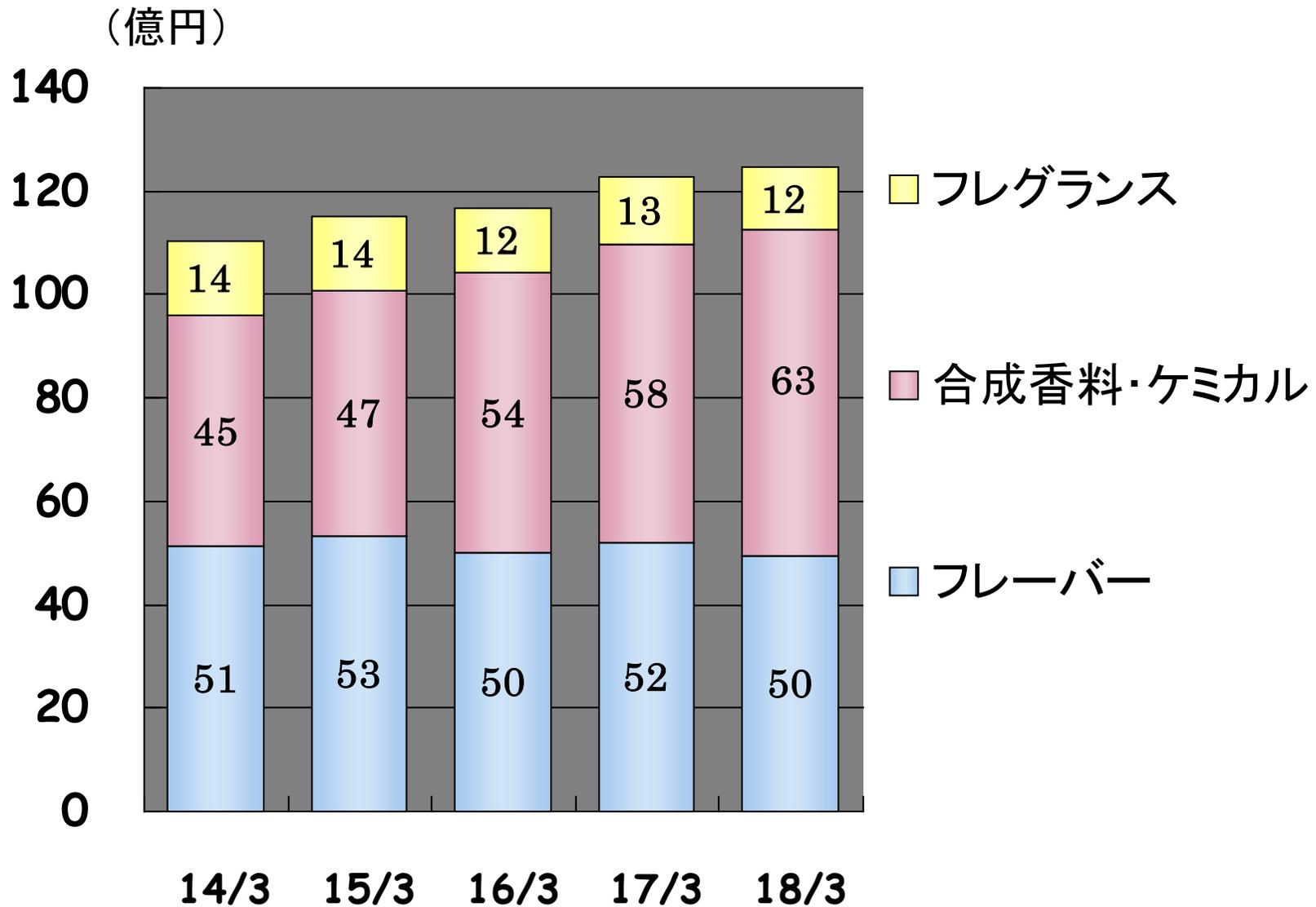
合成香料は主力のラクトン類が海外向けを中心に好調。  
ケミカルも、化成品や着臭剤が伸び、全体でも増収。

売上高 +7.0% (製品+9.2%、商品▲3.9%)

# 部門別売上高推移



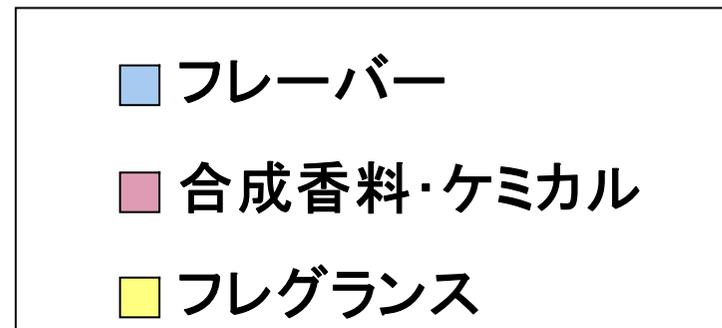
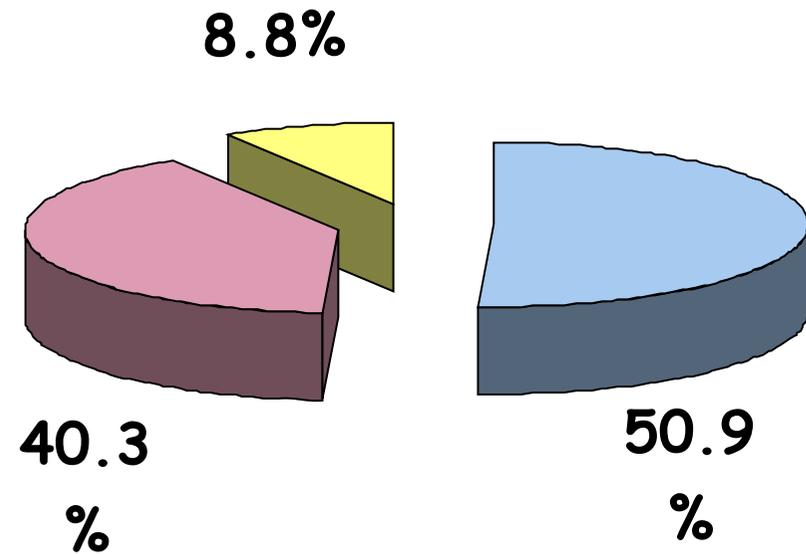
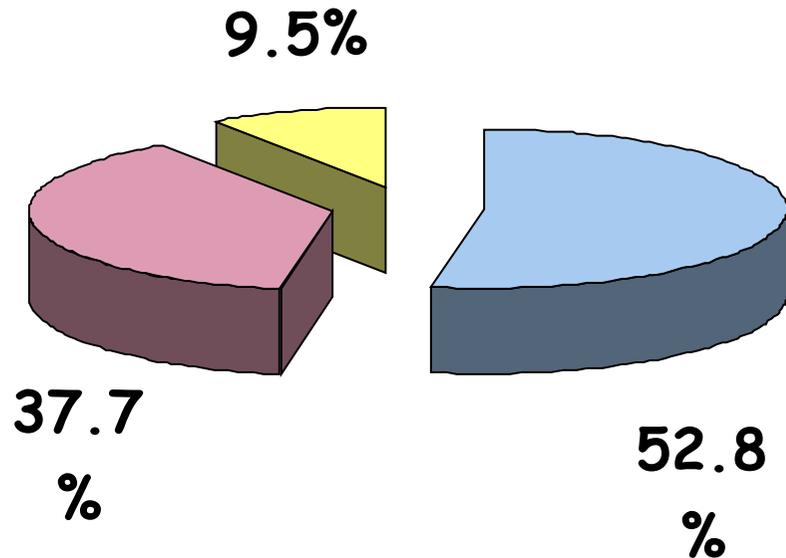
# 部門別売上高推移(製品)



# 部門別構成比率

H18/3

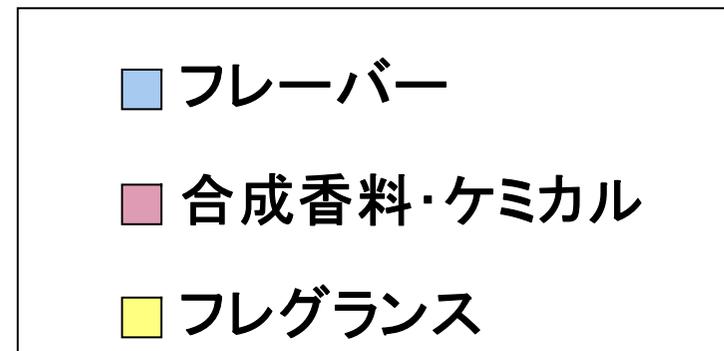
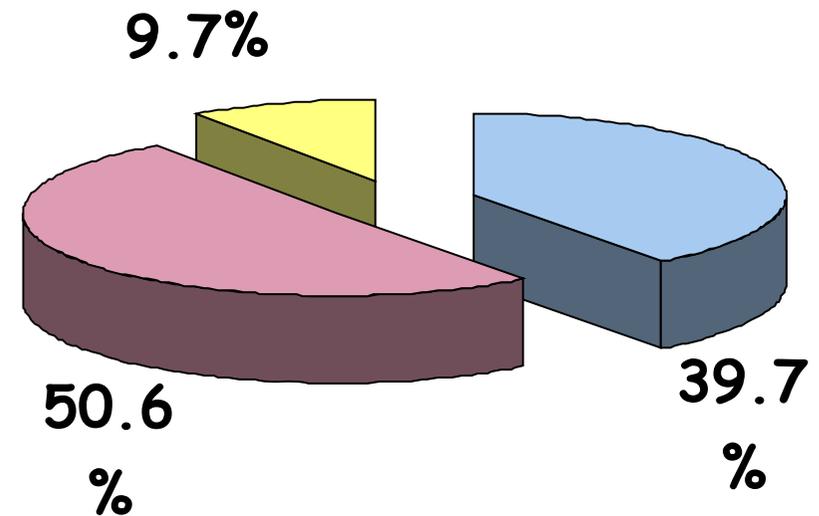
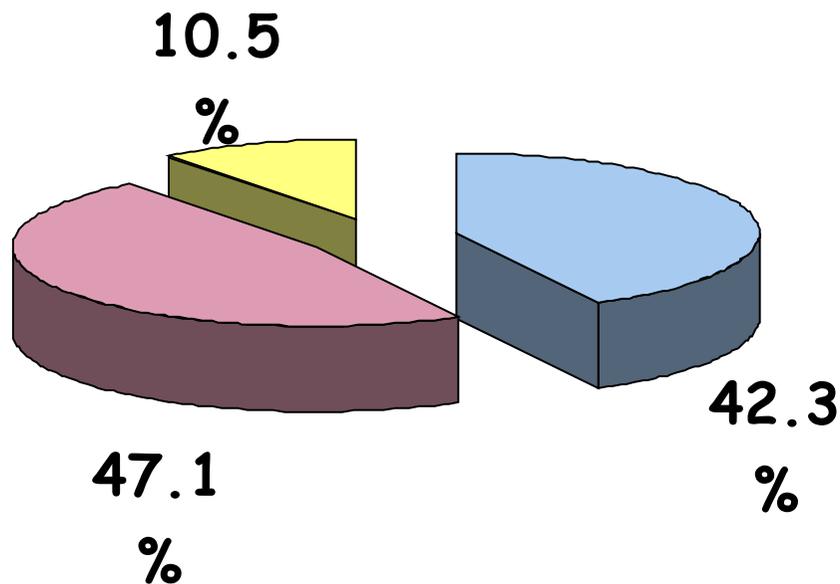
H17/3



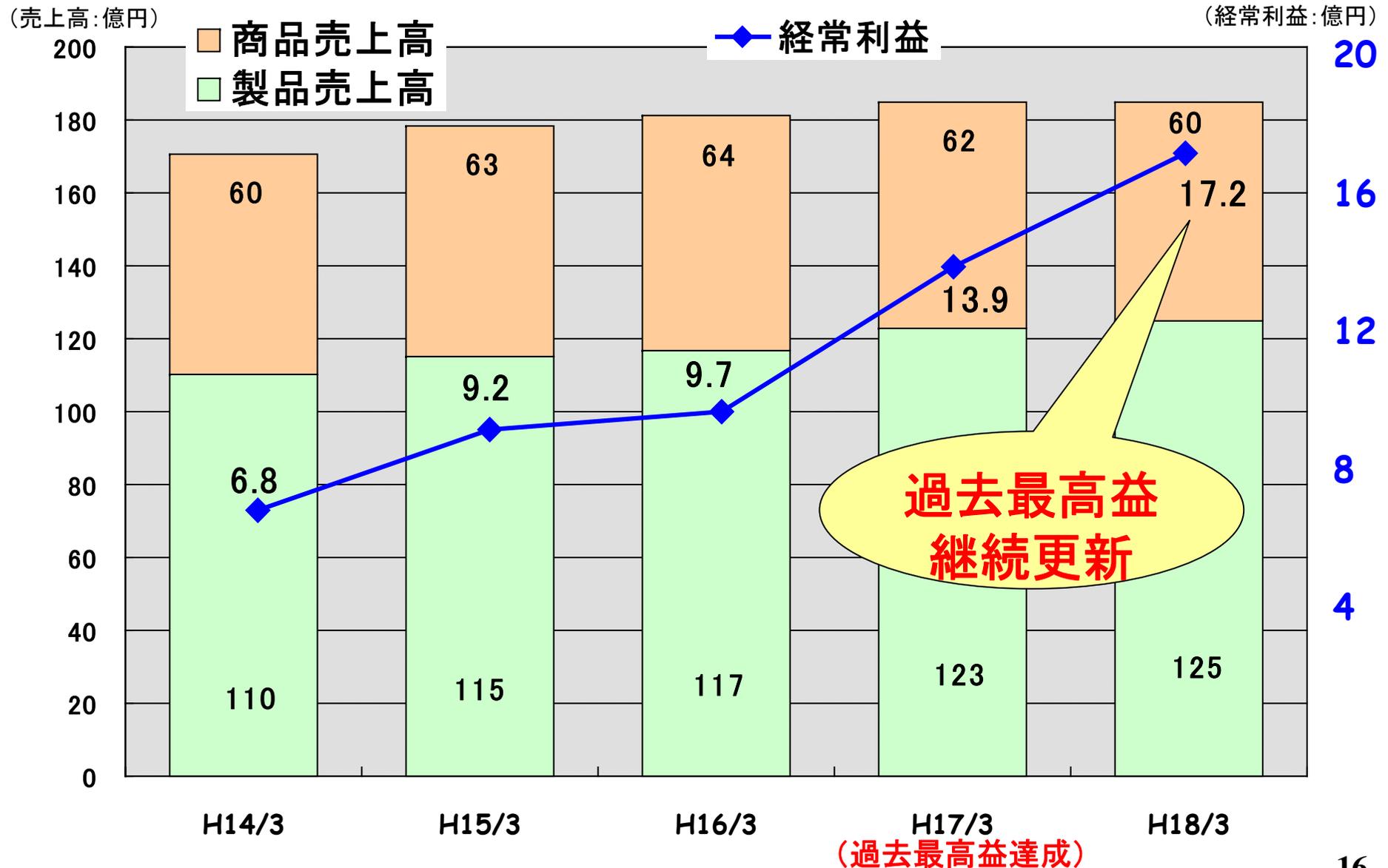
# 部門別構成比率(製品)

H18/3

H17/3

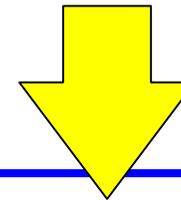


# 製品・商品売上高および経常利益推移



# 経常利益変動要因分析

H 1 7 年 3 月 期	1 3 . 9 億 円	}	3 . 3 億 円 増
H 1 8 年 3 月 期	1 7 . 2 億 円		



## 増益要因

- ①収益構造の改善による増益
  - ・高付加価値品へのシフト、生産・販売数量増
- ②トータルコスト競争力の更なる強化
  - ・製造コストダウン、営業費削減等

## 連結業績の概要(財政状態)

億円

	H17/3	H18/3	増減
総資産	164.6	169.1	+4.5 (+2.7%)
株主資本	72.2	82.9	+10.7 (+14.9%)
1株当たり 株主資本	720.40円	827.89円	+107.49円 (+14.9%)

	H17/3	H18/3	増減
ROE	12.8%	13.5%	+0.7ポイント
株主資本比率	43.8%	49.0%	+5.2ポイント
1株当たり 当期純利益	85.66円	103.39円	+17.73円 (+20.7%)

# 貸借対照表(資産の部)

億円

	H17/3	H18/3	増 減	特記事項
資 産 合 計	164.6	169.1	+ 4.5	
流動資産	99.9	101.3	+ 1.4	手元資金の増加等
有形固定資産	44.3	46.9	+ 2.6	設備投資の増加等
無形固定資産	1.8	1.3	▲ 0.5	ソフトウェアの償却等
投資その他	18.5	19.6	+ 1.1	上場株式の評価差益増加等

# 貸借対照表(負債・資本の部)

億円

	H17/3	H18/3	増 減	特記事項
負 債 合 計	92.4	86.2	▲ 6.2	
流動負債	71.3	58.2	▲ 13.1	社債償還、短期借入金返済等
固定負債	21.1	28.0	+ 6.9	長期借入金借入等
少 数 株 主 持 分	—	—	—	
資 本 合 計	72.2	82.9	+ 10.7	利益剰余金の増加、 有価証券評価差額金の増加等
有利子負債残高	33.0	30.0	▲ 3.0	収益伸長により有利子負債を 圧縮

# キャッシュ・フローの状況

億円

	H17/03	H18/03	増 減
営業活動によるキャッシュ・フロー	15.4	14.7	▲ 0.7
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 5.2	▲ 8.2	3.0 増
フリー・キャッシュ・フロー	10.2	6.5	▲ 3.7
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 7.0	▲ 4.0	+ 3.0
現金及び現金同等物の増加額	3.2	2.4	▲ 0.8
現金及び現金同等物の期末残高	18.5	20.9	+ 2.4

	H16/3	H17/3	H18/3
自己資本比率(%)	39.5	43.8	49.0
時価ベースの自己資本比率(%)	31.2	46.5	68.0
債務償還年数(年)	2.5	2.1	2.0
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	45.1	53.1	59.6

# 設備投資・減価償却費・試験研究費

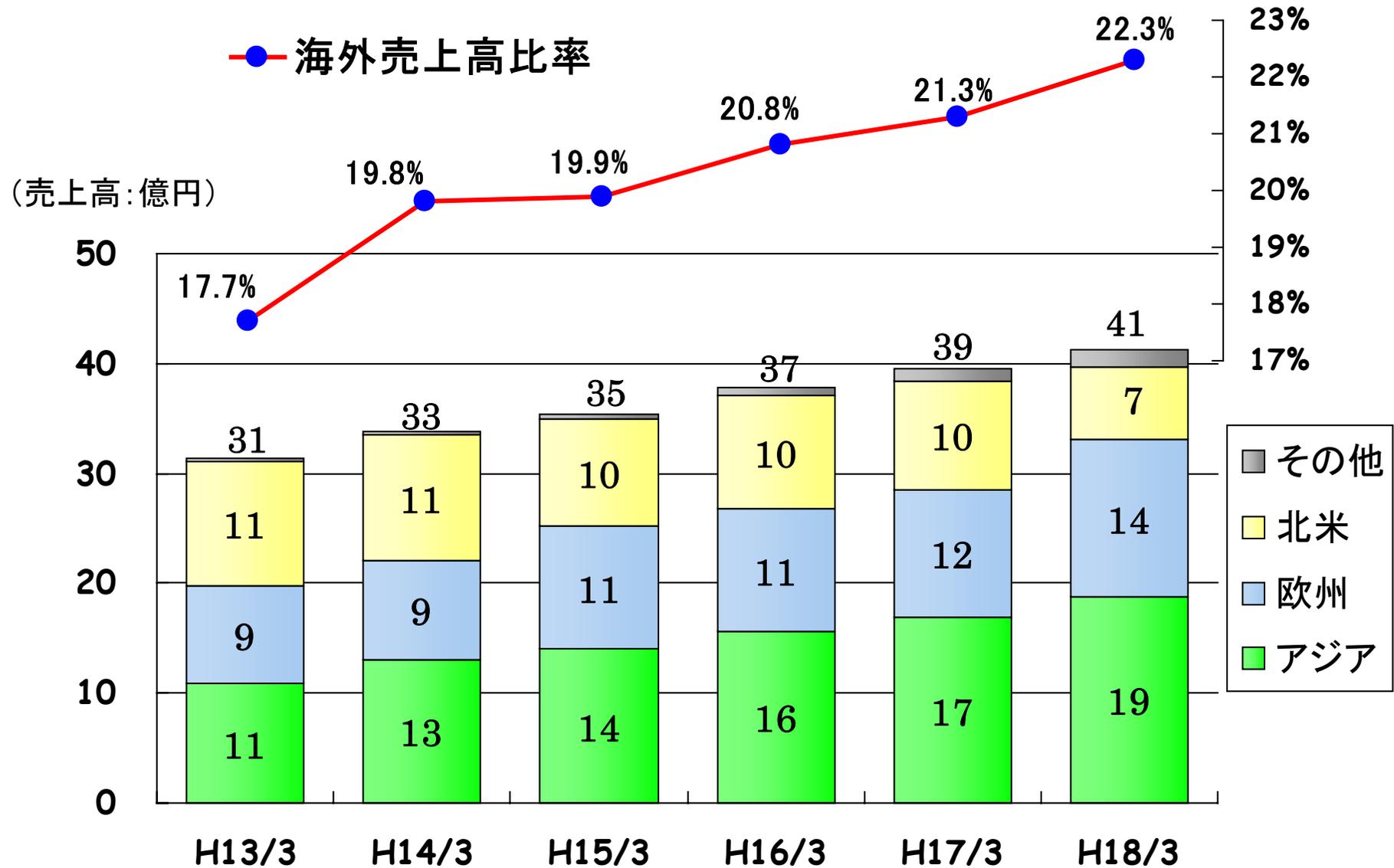
	H17/3	H18/3	増減
設備投資	3.8	9.0	+ 5.2
減価償却費	6.8	6.9	+ 0.1
試験研究費	10.2	10.3	+ 0.1

億円

※主な設備投資

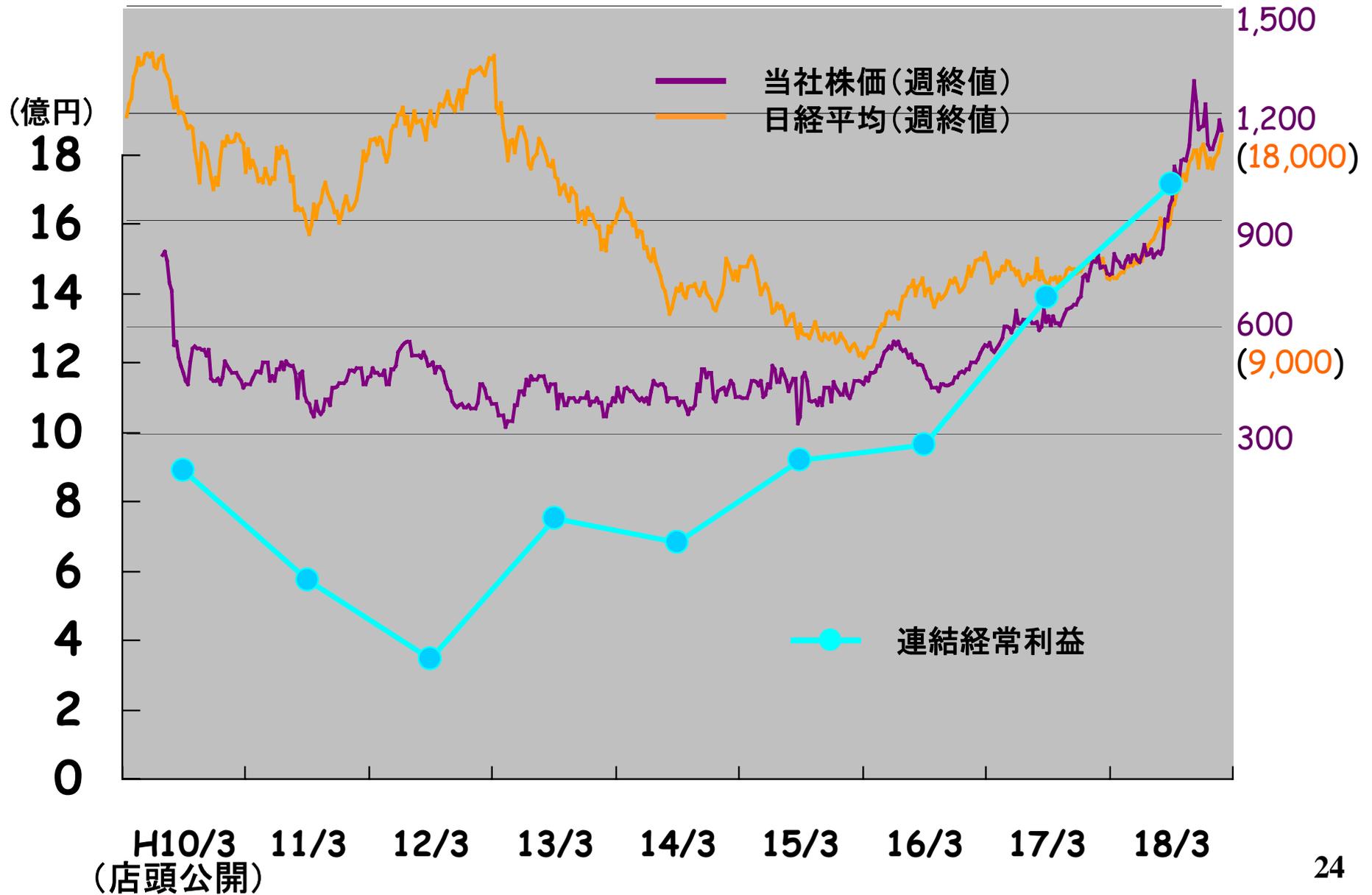
野田工場ケミカル製品製造設備 4.6億円

# 海外売上高の伸長



# 経常利益(連結)と株価推移

当社株価 単位:円  
 (日経平均 単位:円)



## Ⅲ. 平成18年3月期 決算概要(単体)

# 単体業績の概要

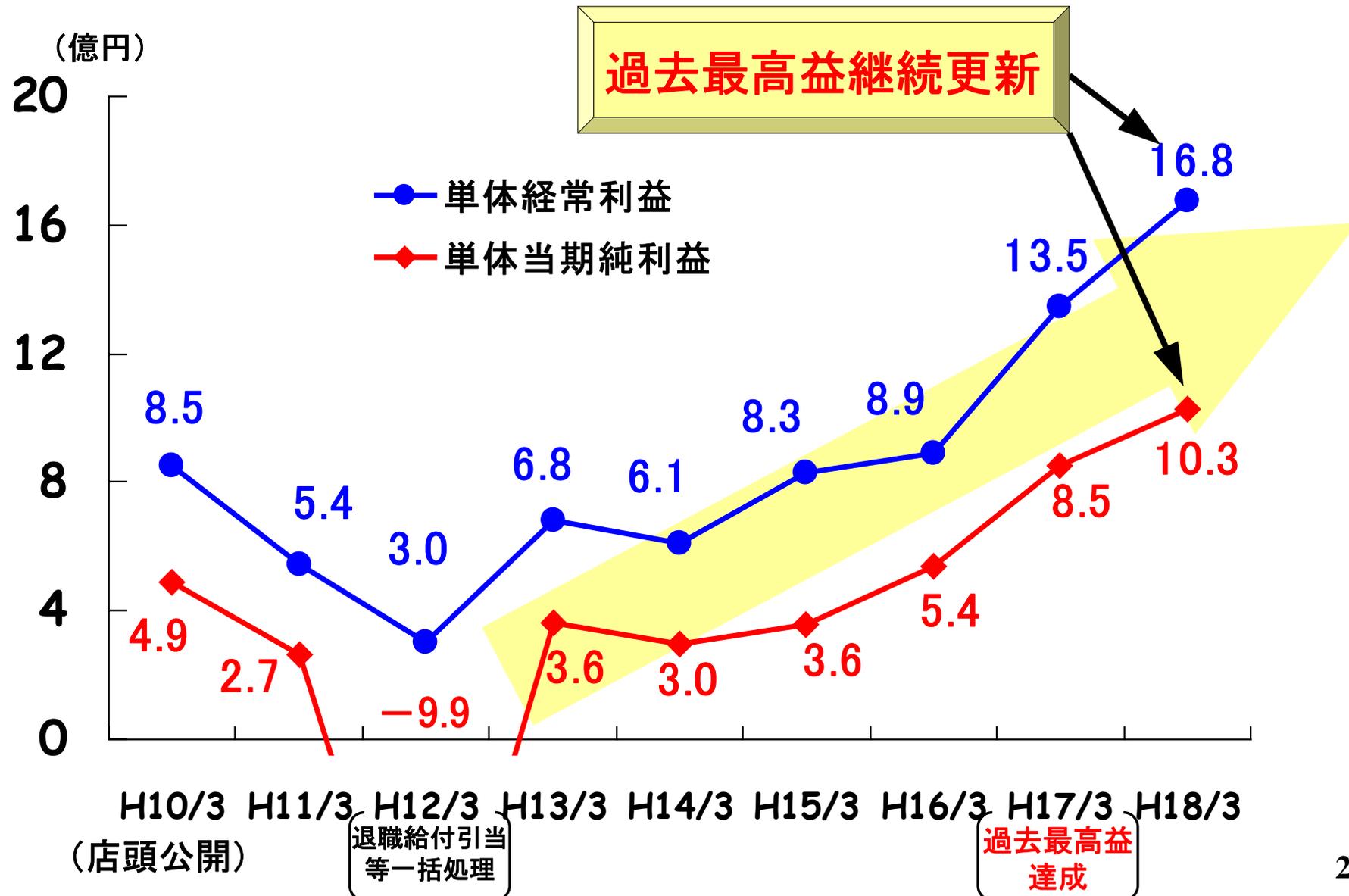
億円

単 体	H17/3	H18/3	増 減
売 上 高	183.0	183.3	+0.3 (+0.2%)
営 業 利 益	13.3	16.4	+3.1 (+23.0%)
経 常 利 益	13.5	16.8	+3.3 (+24.6%)
当 期 純 利 益	8.5	10.3	+1.8 (+21.1%)
総 資 産	159.7	163.5	+3.8 (+2.4%)
株 主 資 本	67.8	78.2	+10.4 (+15.3%)

単体：期末1株当たり利益配当金7円

(中間配当金の5円と合わせ、年間1株当たり配当金12円を予定)

# 經常利益・当期純利益推移(单体)



## IV. 平成19年3月期 業績予想

## 平成19年3月期 市場環境

---

フレグランス → 引き続き微減もしくは減少傾向  
依然厳しい環境

フレーバー → 業界全体の販売金額は、横這い傾向  
ユーザーの価格引下げ要請が厳しく競争  
激化

ケミカル → 合成香料は海外市場が拡大し、輸出が増加  
傾向。  
ケミカルは電子材料市場は拡大傾向、ガス  
着臭剤は横這い傾向。

# 平成19年3月期 業績予想

億円

		H18/3	H19/3(予想)	増減率
連結	売上高	185.0	189.0	2.2%
	経常利益	17.2	17.6	2.5%
	当期純利益	10.5	10.9	4.8%
単体	売上高	183.3	187.0	2.0%
	経常利益	16.8	17.3	3.2%
	当期純利益	10.3	10.8	4.9%

# V. 新中期経営課題(平成18～20年度)の 概要

## 事業環境

※事業環境は前中経策定時(16年度)と基本的には変わっていない

- ・高齡化を背景に食生活の充実、「おいしさ」の重視
- ・食の安全・安心および健康志向の一層の高まり
- ・少子化により国内市場は成熟化が進展
- ・グローバル化の進展
- ・価格競争が厳しく、技術力・提案力など益々レベルの高い競争へ



多様化する消費者ニーズへの対応

より付加価値の高い調合用新素材の開発、  
新たな機能性香料製品の開発に特化

## 新中期経営課題(平成18-20年度)

---

### 1) 全社方針

安全・衛生・防災・環境保全、企業倫理等、CSRの推進を最優先課題

### 2) 中期目標：

ユニークで存在感のある香料会社として  
新たなステージへ飛躍

3) スローガン： 「Innovation by Aroma」  
— 香料による新しい価値の創造 —

## 数値目標(平成20年度)

	前中経目標 (H18年度)	実 績 (H17年度)	新中経目標 (H20年度)
経 常 利 益	12億円以上	17.2億円	20億円以上
R O E	10%以上	13.5%	11%以上
R O A	8%以上	10.1%	11%以上
D / E レ シ オ	0.5倍以内	0.4倍	0.4倍以内

\* ROE:株主資本当期利益率 ROA:総資本営業利益率

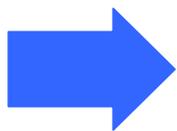
\* 資本利益率の各資本は期首・期末の平均

# 中期経営課題・施策

## 1. 事業構造改革による事業拡大・収益拡大

### 1) 収益基盤の強化・収益拡大

- ・3部門における各製品、各技術別の強み・弱み解析による選択と集中の徹底
- ・各部門におけるターゲット市場での当社技術の深化、新製品の上市



自社製品比率の向上  
消費者ニーズの高い製品の売上増加

## 2) 事業部門別課題

### ①フレグランス事業部門

国内市場縮小傾向の中、国内外のターゲットを絞り込み、効率的事業運営を図る

### ②フレーバー事業部門

営業と研究が一体となった重要分野攻略等による飲料用を中心とした既存フレーバーの拡販と新規高力価フレーバーの開発、上市

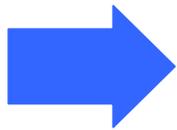
### ③ケミカル事業部門

合成香料のトータルコスト競争力強化、拡販  
電子材料等化成品事業の拡販

### 3) 中国(昆山)事業の拡大

曾田香料(昆山)有限公司の生産・販売体制の強化による  
事業拡大

フレーバー、フレグランス、たばこ用調合香料の拡販



全社プロジェクトを設置

H20年度中国(昆山)事業目標売上高11億円

## 2. 企業体質強化

### 1) 事業体質の更なる強化

前中経の成果を引き継ぎ一層の体質強化に努める

①比例費削減：購買VA、プロセス改善によるコストダウン

②労務費の適正化：各事業部門における要員規模・年齢分布の適正化。

③資本効率化：有利子負債削減

－前中経の成果D/Eレシオ0.4倍(H18/3)以下を堅持

### 2) 人材育成の強化

部課長層の更なる意識改革、第一線営業マンの営業力の強化

これら課題・施策の確実な実施により

ユニークで存在感のある香料会社として  
新たなステージへ飛躍

本資料中の平成19年3月期業績予想、見通し及び事業計画についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。

本資料に関するお問い合わせ

曾田香料株式会社

経理部

TEL : 03-5645-7340 (代)

FAX : 03-3668-6289 (代)